

## 有機農業への取り組みは



織笠 孝之 議員

【質問】「食の問題」に注目が集まる中、安心・安全な農業を営む後継者の育成と地域間競争・国際競争に打ち勝つ農業振興の今後の見通しは。

【市長】飼料、肥料、生産資材の高騰、和牛市場の低迷等が続き、厳しい状況だがいかに生産コストを下げるかが課題だと思う。農業所得向上に向けた具体的な取り組み等

を行っている。

【質問】農産物のブランド化によって収益向上、販路拡大を図る取り組みの仕組みづくりが成功すれば、商品の販売価格の安定が実現し、地域の発展と活性化に繋がると思うがいかがか。

【市長】消費者の中には、こだわりを持った農産物への要望が増えていくことが予想される中で、しっかり対応する体制づくりは重要なことと認識している。有機農業等のこだわり栽培の支援については、アストの計画にも入れながら進める。良質な堆肥の生産については、堆肥センターの活用も一方策と考える。ブランド化は短期間では難しく、実績を積み重ねながら評価を受けて初めて確立されると考えられる。安定供給体制が必要なので農家の方々と合意形成を図りながら取り組んでいきたい。

【質問】学校給食の食物アレルギーを有する児童生徒数は、小学生78人、中学生34人と報告されているが、主な原因は食品では魚類・鶏卵・そば等のアレルギーが大半を占めているが、学校給食の対応をどう考えているか。

【教育長】平成20年2月に市内児童生徒数2,441人を対象に学校を通じてアレルギー調査を実施した。アレルギーを有する児童数は合計112人である。今後は総合食育センターの整備と併せて対応方法など関係者と協議を重ねると共に、学校と保護者の連携を図っていく。



▲学校給食をおいしそうに味わう子供たち

## 決算特別委員会 9月18日～22日

決算特別委員会（議長を除く21人の議員で構成、委員長菊池民彌議員、副委員長浅沼幸雄議員）は、決算9件の議案について付託を受けて3日間の審議を行いました。

今定例会では、特にも市税等収納対策、地域づくり振興費、後期高齢者医療制度、若者定住事業等に質疑が集中しました。

審議の結果、一般会計ほか8会計を賛成全員でもって認定いたしました。

### 収納プロジェクト 対応について

【質問】市税の滞納者に対する収納プロジェクトの対応はどのようなか。また、滞納者の固定化という状況の納税者の悩みを聞くべきではないのか。

【答弁】プロジェクトは全庁体制で取り組み、職員150～180名らが個別訪問するものだったが、今まで5年間活動を展開してきた。その結果、一定の効果も上げた。しかし、そのうちに単なる催告書を届けるだけではないのかという反省もあり、検証が必要と思い当面は各税目ごとの収納活動を図ることにした。このプロジェクトの目的は、職員が戸別訪問をし、市民と接することにより滞納者の実態を把握し、その背景を分析し行動すべきものだった。更に職員の教育、研修の意味もあった。

### 冬のぬくもり支援 事業の成果は

【質問】昨冬実施した冬のぬくもり応援事業（福祉灯油）の成果は。

【答弁】対象1,969世帯全てに通知したが、申請は1,771世帯（89.9%）であった。

【質問】申請がなかった198世帯への対応は。

【答弁】再度通知したが173世帯から応答がなかったため、健康福祉の里職員総力戦により、電話で連絡を取ったり、或いは地元の民生委員の方々などから情報を得、交通手段がない方々には最寄の職員や民生委員の方々が足を運んで対応した。また、冬期間ご子息の所で暮らす方や長期入院の方、そして本人の意思により辞退された方もあった。